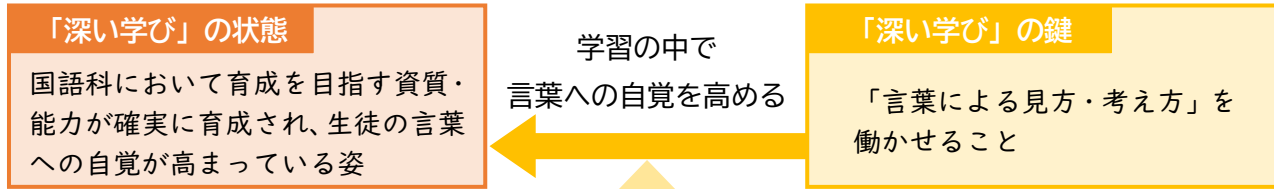


中学校 国語科 中学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 Vol. 2
—「言葉による見方・考え方」を鍵に、「深い学び」につなげる授業改善—

1 「深い学び」の実現のために



言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。

※下線は本研究による『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』p.12

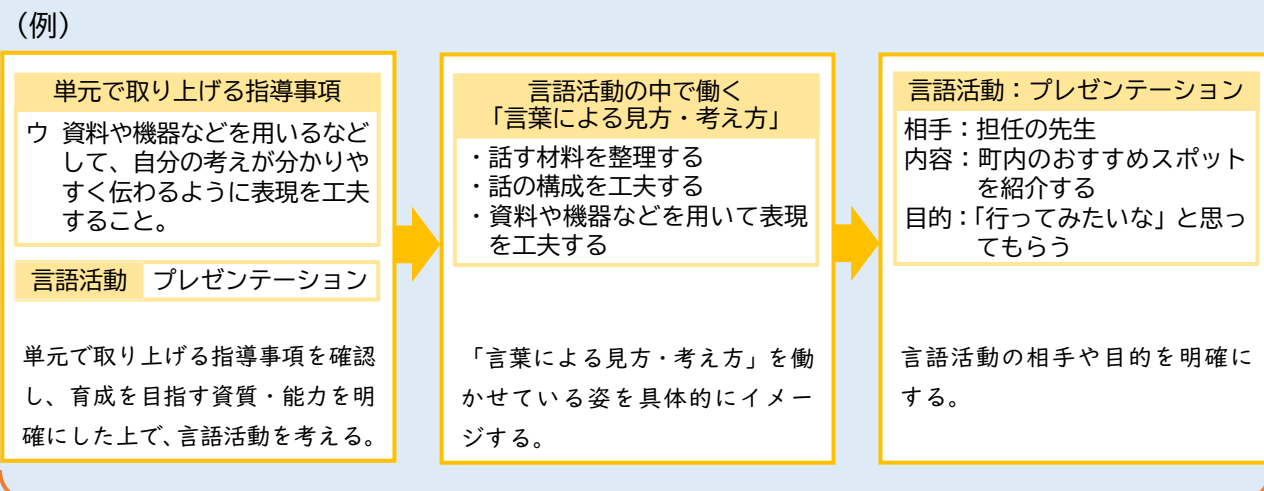
下線部に注目すると、生徒が「言葉による見方・考え方を働かせる」ことは、「言葉への自覚を高めること」と捉えることができそうです。

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としています。そのため、生徒が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるようにすることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながります。

2 「言葉による見方・考え方」を「深い学び」につなげるポイント

- ポイント①** 「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動を設定する。
- ポイント②** 単元を通して、生徒が「言葉による見方・考え方」を自覚的に働かせることができるようにする。

ポイント① 「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動を設定する。



担任の先生に、町内のおすすめスポットについて、「行ってみたいな」と思ってもらえるような魅力的な提案をする。

ポイント② 単元を通して、生徒が「言葉による見方・考え方」を自覚的に働かせることができるようにする。

単元の見通しをもつことができるように説明する

(例)

この単元では、資料や機器などを用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す力を伸ばす学習をします。
具体的には、担任の先生に、町内のおすすめスポットについてプレゼンテーションをすることに取り組みます。

単元で育成を目指す資質・能力

単元で取り組む言語活動

先生に、「行ってみたいな」と思ってもらえるような魅力的な提案をしましょう。

言語活動の相手や目的

担任の先生に、おすすめスポットの魅力が分かりやすく伝わるように、資料などを使って表現を工夫しながらプレゼンテーションを組み立てるんだな。



言語活動の中で、どのような「言葉による見方・考え方」を働かせるのか意識できるような発問を行う

(例)

担任の先生にとって魅力的な提案にするために、どのように表現を工夫するとよいでしょう。

言語活動の相手や目的を明示
「表現を工夫すること」を明示

おすすめする理由を話すだけでなく、資料でも示すと伝わりやすいと思います。

※相手意識や目的意識をもち、実際にどのように表現を工夫するか考えている



「言葉による見方・考え方」を働かせる場面を繰り返すような単元構成にする

(例)

